

平成30年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」・「読み解く力」における平均正答率の比較

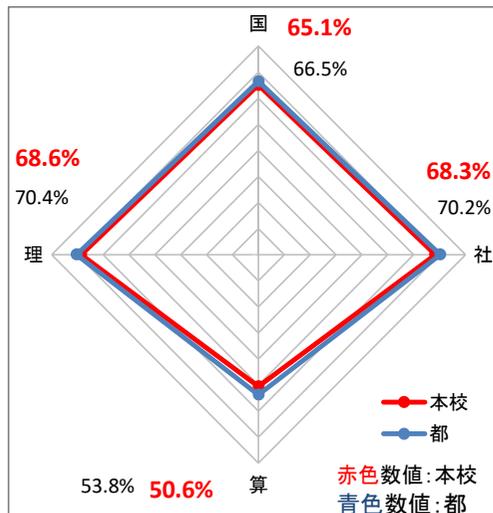
第四葛西小学校

国語	教科の観点					読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	93.3%	81.7%	39.8%	74.6%	55.2%	65.9%	73.1%	69.3%	66.9%	69.8%	66.5%
本校	93.4%	81.7%	36.3%	73.2%	53.7%	64.7%	72.6%	69.0%	60.2%	67.3%	65.1%
都との差	0.1	0.0	-3.5	-1.4	-1.5	-1.2	-0.5	-0.3	-6.7	-2.5	-1.4

社会	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	87.3%	72.6%	78.3%	62.0%	74.2%	72.0%	53.3%	52.9%	59.4%	70.2%
本校	87.6%	71.5%	75.4%	63.7%	73.3%	68.6%	48.2%	48.7%	55.2%	68.3%
都との差	0.3	-1.1	-2.9	1.7	-0.9	-3.4	-5.1	-4.2	-4.2	-1.9

算数	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	84.1%	40.7%	65.8%	54.6%	59.0%	53.5%	21.9%	21.1%	32.1%	53.8%
本校	85.8%	34.1%	61.9%	51.0%	55.0%	50.4%	23.0%	23.9%	32.4%	50.6%
都との差	1.7	-6.6	-3.9	-3.6	-4.0	-3.1	1.1	2.8	0.3	-3.2

理科	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	90.7%	61.8%	64.8%	79.1%	71.5%	72.2%	71.9%	59.1%	67.8%	70.4%
本校	89.4%	55.6%	61.4%	79.9%	68.6%	73.0%	73.5%	59.3%	68.6%	68.6%
都との差	-1.3	-6.2	-3.4	0.8	-2.9	0.8	1.6	0.2	0.8	-1.8



《都との比較にみる本校の状況》

- ・国語1.4%、社会1.9%、算数3.2%、理科1.8%といずれも全体平均において都の平均を下回った。
- ・国語では「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」、算数では「数学的な考え方」、理科では「科学的な思考・表現」が特に全体平均を下回った。
- ・『読み解く力』に関する内容においては、国語3問、社会6問、算数6問、理科6問の内訳であったが、国語と社会が都の平均正答率を下回った。
- ・理科では、『読み解く力』を構成する4つの項目において、すべて都の平均正答率を上回った。
- ・各教科の「関心・意欲・態度」に関する内容においては、国語、社会、算数において都の平均正答率を上回った。

《授業改善のポイント》

- 【国語】単元全体に言語活動を位置付け、学校や児童の実態に応じて取り上げる言語活動を工夫する。その際には、主体的・対話的で深い学びの視点から言語活動を充実させ、児童の学びのさらなる質の向上を図っていく。
- 【社会】児童が学習問題を見出し、その解決への見通しをもって取り組んだり、振り返って次につなげたりするなどの主体的な学びの展開を図っていく。
- 【算数】習熟の程度に応じた指導などの指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図っていく。
- 【理科】見通しをもって観察、実験やものづくり等を行うことを通して、結果を整理し考察し表現する学習活動を充実させ、問題解決の力の育成を図っていく。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・学校だより等で、家庭学習の習慣の形成について理解と協力を求めていく。
- ・宿題を工夫し、学年×10分の学習時間の定着を図っていく。
- ・個人面談においては、個々の学習や生活の傾向を伝えていく。
- ・5年の保護者会において、都の学力調査における5年生全体としての傾向を伝える。